

政務活動費活動報告（視察）

佐賀県佐賀市

(1) 出席者（会派名・個人名）

親政クラブ・和田一繁、馬場和子、林利幸、疋田菜穂子

(2) 実施日：

令和6年10月15日（火）14時00分～15時30分

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

2025年に滋賀県で開催される国スポ・障スポの主会場となる平和堂 HATO スタジアムでの総合閉会式の設営および運営を担う予定である。

(2) 本市における課題

主会場となるスタジアムで行われる閉会式への本市の関わり度合いや会場の設営および運営について、前回の開催からすでに40数年以上が経過していることから、知見やノウハウを有する職員がおらず、また現在まで、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ彦根市実行委員会で、計画を立て取り組まれているが、具体的な成果がまだ目に見える形では示されていない状況である。そのため、令和6年10月15日に閉会される第78回 SAGA2025 国民スポーツ大会の総合閉会式の状況を調査し、名称が国体から国スポ変更になった最初の大会でもあり今後の本市で開催される総合開閉会式の参考とするものである

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

- ・ SAGA2024 国民スポーツ大会総合閉会式の運営、演出およびスケジュール、ゾーニングについて
- ・ 駅から会場までの交通計画について
- ・ 国スポにおける市民の機運醸成にかかる取組について

(2) 選定地：10月15日（火）佐賀市(SAGAアリーナ)13:00～15:30

【3. 調査結果】

(1) 内容

10月15日「すべての人に、スポーツの力を。新しい大会をともに！をテーマに体育からスポーツに変わる SAGA2024 国スポ」の総合閉会式が主会場に隣接する SAGA アリーナで開催されました。今年度から名称を国民体育大会(国体)から国民スポーツ大会(国スポ)に変わった最初の大会でもありその中の総合閉会式の運営、演出と主会場周辺の設営ならびに交通対策などを現地視察した。当日はアリーナでの閉会式である為天候に左右される事なく参加する選手や競技役員、来賓、一般観覧者(抽選で選ばれた県民)で大変賑わった雰囲気であった。しかし会場外周辺はあまり賑わいなど感じられなかった。周辺道路の交通も混雑はなく駅から会場まで徒歩で15分から20分位であり歩いて移動している方が多かった。アリーナ入場の際にはセキュリティチェック(金属探知機)箇所がいくつもあり金属類を入れる袋を入場者一人ひとりに渡し、スムーズな手荷物検査への協力を呼びかけていたが、入場者が多く長蛇の列が見られた。ペットボトル類の水分持ち込みが禁止されていたが、紙

コップに入れ替えての持ち込みは可能でした。式典が会場内である為温度調整も管理がされており快適でありました。

滋賀県の開閉式はともに外で開催される為、天候によるリスクも考えていかななくてはならない。総合閉会式の観覧者は抽選で選ばれ全席指定となっていました。アリーナの特徴を利用した音、光、DJ などエンターテイメント要素を盛り込んだ演出であった。

閉会式は 14 時のオープニングプログラムから式典、エンディングプログラム終了の 15 時 25 分まで原則として退場が出来ない仕組みとなっており、内親王佳子様ご着席からご退席までの間は原則として離席できないこととなっていた。特に今後忘れてはならないと感じたことは、開閉会式の運営主体はあくまで県であるが、総合閉会式の選手団の入場や成績発表、実施される式典演技など滋賀の魅力、歴史など未来へつなげるためのボランティアの協力なくしては大会運営が成り立たないということである。また、趣向を凝らした演技をボランティアとともに実施し、見る者の感動を引き起こすおもてなしが必要だと感じました。このような県民が出演する場面では、主会場である市内の小中高生も多く見受けられた。

会場周辺では、国スポオリジナルグッズや物産等おもてなしブースが設けられていましたが閉会式前後における導線、配置が悪くお客様の流れがなく少なく感じた。

佐賀駅前に競技会場を案内するブースやお土産ブースが設けられており、シャトルバスの発着時刻や乗り場を案内するスタッフの姿が見られ、来場者に対する競技会場外でのおもてなしが随所に見受けられた。

(2) 考 察

SAGA2024 国スポの総合閉会式はアリーナの特徴を最大限に活かしたエンターテイメント性が随所に感じられた式でありました。それぞれ競技のピクトグラムにより種目の分かりやすさや、式典を彩る音楽、都道府県旗手入場フラッグパフォーマンスや光の演出、映像による MC の解説など室内だからできる演出でもあった。

安心、安全な設営や運営、オペレーションなどが随所で行き届いていることを感じる事ができた。SHIGA2025 大会を来年に控え既にプレ大会等県内各地で行われています。

その中で課題が見つかり修正していく訳ですが、開閉式はプレ大会もありません。まず県が事前の綿密な計画策定に加え、会場設営・運営の計画と輸送計画を合わせた総合的なオペレーションをどのようにして担って行くのかについては、主会場を持つ我が市と綿密に調整が必要であると感じました。

来年度はスタジアムでの総合開閉式の予定であります。温暖化による暑さやスタンドに屋根はあるが、その陰にならない直射日光が当たる箇所もあり綿密な対策と準備、計画、県と市町の十分な連携が必要であります。佐賀 2024 の総合閉会式を通じて感じたことは会場がアリーナかスタジアムかに関わらず多くのボランティアスタッフの登録、参加協力が必要であると言う事です。大会を盛り上げ成功させようとする小中高生の皆さんをはじめとする多数の県民、市民の滋賀 2025 国スポ・障スポの大会を盛り上げていく機運醸成の必要性を感じた視察でありました。※天皇杯（男女総合成績）滋賀は 8 位でした。

政務活動費活動報告（視察）長崎県長崎市

(1) 出席者（会派名・個人名）

親政クラブ・和田一繁、馬場和子、林利幸、疋田菜穂子

(2) 実施日：令和6年10月16日（水）9：30～11：30 14：00～17：10

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

彦根市に来訪された観光客を、キャッスルロードから四番町スクエア、また足軽屋敷、辻番所などが現存する芹橋地区などに誘客することが難しい。

また彦根城の世界遺産登録について動き出したが、市民全体の意識の高まりがみられない。

(2) 本市における課題

観光地を周遊する手段として、グリーンスローモビリティの実証実験をし、その結果は好評だったのだが、グリーンスローモビリティは高額で財政的な面から考えると本市での導入は難しい。また、彦根城周辺は特に観光シーズンになると、渋滞と駐車場不足の問題を抱えている。

【2. 調査地選定理由】

調査項目

選定地1：長崎市役所

ご担当者様 長崎市まちづくり部まちなか事業推進室係長 甲斐大貴さま
長崎市まちづくり部まちなか事業推進室 山口真歩さま

まちぶらプロジェクトについて

選定地2：長崎市街

長崎居留地 南山手レストハウス

選定地3：軍艦島

【3. 調査結果】

まちぶらプロジェクトについて

「まちなか軸」を基盤として、5つのエリア間の回遊性を高める環境の整備を行い「陸の玄関口」と「海の玄関口」との連携軸の整備により「まちなか」への誘導を図る。目的として、歴史的な文化や伝統に培われた「まちなか」の賑わいの再生を図るため、5つのエリアの個性や魅力の顕在化などを進めるための整備やソフト事業を市民などと連携しながら進めるものである。計画として、エリアの魅力づくり、軸づくり、地域力によるまちづくり、という3本柱で構成されている。

長崎市街について

長崎居留地 南山手レストハウス

「グラバースカイロード」の斜行エレベーター乗降口に近く、幕末に建てられた石造りの外壁を持つ初期の外国人居留地住宅見学。庭からは、東山手方向の町並みが広がり景色が素晴らしい。「グラバースカイロード」は日本初の街路事業で整備された斜行エレベーター。南山手レ

ストハウスは市民や観光客が気軽に休憩できる施設として活用されており併せて、旧居留地に関する資料等も展示されている。

軍艦島について

2015年7月、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産～製鉄・製鋼・造船・石炭産業～」として正式登録された。2009年に一般の上陸が可能となり、現在では多くの方が上陸ツアーに参加して、軍艦島を訪れている。軍艦島は明治時代から昭和時代にかけて、海底炭鉱によって栄えた、日本初の鉄筋コンクリート造の高層集合住宅も建築されるなど最盛期には東京以上の人口密度を有していた。昭和49年の閉山に伴い、全島民が島を離れてからは、無人島である。2000年代に入り、近代化遺産として注目され始めた。荒廃が進む島内各所の様子が各メディアで紹介された。安全面での課題が解決されたことにより、世界遺産登録への機運が高まり2015年登録が実現した。世界遺産となっているのは炭鉱への入り口があった部分だけで、埋め立てられた部分にある建造物等は世界遺産にはなっていない。

(考察)

まちぶらプロジェクトについては、本市に置き換えると、お城、キャッスルロード、四番町スクエア、芹橋二丁目エリアに分けて、各エリアが持つ特色を生かしながら、魅力の向上に結び付くような取り組みが必要だと感じた。各エリア間の回遊性を高める環境の整備として、トイレの整備や建物の改修に補助金を出すことも必要であると思った。地域や市民自らが企業や行政、NPO等の多様な組織と連携を図ることは街づくりにとってもはや不可欠である。行政からはスタートアップ補助金という支援もあり、個人経営者や市民団体が商店街で行うイベントに設営や情報発信など協力しているという点も興味深い。

わずかな時間の現地視察だったが、ゆっくりとまた来なくなる街であった。夜景も素晴らしいと聞いたので、夜に来てみたいとも思った。稲佐山の展望台からの夜景は「世界新三大夜景」にも選ばれたことがあるとのこと。何度も訪れたいくなる街、長崎。

軍艦島の建造物は風化の一途をたどりやがて崩壊していくことは明らかなだが、世界遺産登録されているのが炭鉱の入り口があった部分のみであり維持管理、保全という部分は重要ではないという部分は羨ましい。平日にもかかわらず多くの観光客でクルーズ船はいっぱいだった。オーバーツーリズムについては、乗船者数が限られているので、調整は可能である。現地の案内ガイドの女性の話がとてもうまく、当時の映像が浮かんでくるようだった。彦根でも世界遺産登録に向けてガイドの方の育成が今から必要だと感じた。「海に眠るダイヤモンド」のテレビ放映がちょうど始まり目が離せない。実際は別の場所にセットを組んで撮影されたとガイドの方が言われていたが、また、軍艦島がブームになり観光客がたくさん来られることだろう。彦根も撮影現場となることが増え、観光客がより増えることを期待せずにはいられない。

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

親政クラブ

和田一繁・林利幸・疋田菜穂子・馬場和子

(2) 実施日：

令和6年10月17日

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

文化の香り高い彦根市を市民憲章にも掲げている彦根市では、知の拠点でもある図書館は現在、彦根市の北部に一館体制で運用されています。

今後、図書館に関して複数館体制での運営が協議会等でも議論がなされている中三館体制の基本方針が定められ現在の図書館を北部館・中央地域に一館・南部地域に一館の見通しが示されています。

そんな中、2025年に控えた国スポ・障スポの競技会場として整備されたプロシードアリーナ HIKONE に隣接する旧ひこね燦パレスを大規模な改修を加えて中部館として活用することが現市長により打ち出され国庫補助を受けながら中部館としての改修の見通しが示されています。

(2) 本市における課題

人口の集中しているエリアでの「市民にとってよりよい図書館」の計画について有名な設計者によるデザインにより生まれ変わることになりましたが、極めて厳しい財政面での改修となることから使い勝手がよく加えて財政的な負担の少ない図書館とすることが至上命題となっています。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

長崎県大村市にある「ミライ ON 図書館」は、名前にも示されているように現在と過去のことを知ることで、未来の自分のためのスイッチを ON に出来る場所との想いが込められた県と市が合同で整備し運用されている希少な施設です。

基本理念は、ミライへつながる出逢いを生み出す知の拠点

県立・市立一体型として、施設区分や蔵書区分がない一つの図書館であることや収容能力は九州最大規模の202万冊、蔵書数も九州第一位の約139万冊。

大村駅を降りて直ぐの好立地による利用者も多く三年連続で37万人であることなどから県市合同での施設建設や運用について、実際に施設内を視察して学ぶことを目的としました。

(2) 選定地 1 :

長崎県大村市桜貝本町にある長崎県立図書館・大村市立図書館「ミライ ON 図書館」

【 3. 調査結果】

(1) 内 容

ミライ ON 図書館の館長であり長崎県立長崎図書館の館長も兼任される池田浩氏から概要の説明を受けました。

令和 1 年 1 0 月に開館した図書館は 5 年間で 2 0 0 万人の利用者があったこと

1 日の平均利用者は 1 3 0 0 人、開館日は火曜から金曜までは午前 1 0 時から午後 8 時まで、土曜・日曜・祝日は午前 1 0 時から午後 6 時まで

県内各市町からの利用もあるため一回の貸し出しは最大で 5 0 冊、期間は 2 2 日間まで可能とのことで一日平均の貸し出し数は平均で 3 0 0 0 冊とのこと

建設に関する費用の説明では、大村市所有の土地を長崎県に永久無償で貸し

建設費総額 7 6 億円の按分は長崎県が 4 8 億円、大村市が 2 8 億円

鉄骨造 6 階建てで 1 階はこども室や多目的ホール、大村市歴史史料館を併設、2 階は学習スペース、3 階は一般資料開架、4 階は資料閲覧スペース、5 階は湿度 5 5 % 室温 2 5 ℃に保たれた資料室（概要説明後、各階を現地踏査）

駐車場も 2 0 5 台駐車可能で図書館利用者は実質無料で対応しているとのこと

一通りの施設概要の説明を受けた後、池田館長自らがナビゲーターとして施設内を案内いただき、その中で

5 階資料室では

★完璧な空調管理がされており移動式の書架により検索がしやすくなっていること

★天井灯は人感センサーにより管理されていること

★県立図書館のキャパシティオーバーにより移動された大正時代からの新聞は 1 年ごとにファイルされ、デジタル保存も同時に行われていること

4 階資料閲覧スペースでは

★窓側を向いた机の配置により、眼前に芝生の緑が目にも優しいこと

3 階一般資料開架スペースでは

★ 2 1 万冊の開架と閲覧席が 2 3 1、高さの異なる車いすに対応するため高さを変えられる閲覧席が設けられていること

★天井灯はなく、書架最上部に LED ライトが灯されていること

★天井材に使われた対馬杉の芯部分を書架の柱として使用していることで優しい雰囲気を出していること

2 階学習スペースでは

★ 1 0 4 席の学習席とグループ学習室が 6 室配置されていること

★ 7 6 名収容可能な研修室があること

1階児童開架コーナーでは

- ★天井を低くして子どもたちの声が館内に拡散しないよう工夫されていること
- ★書架も低く子どもも手に取りやすくなっていること
- ★親子トイレや見守りトイレが設けられていること
- ★視覚・聴覚に障害を持つ子どものための「りんごの棚」が設けられていること
- ★季節ごとの飾り物などの装飾は、図書館ボランティアが制作されていること

併設されている大村歴史資料館では

- ★大村市の歴史を示す資料が展示されており、南蛮屏風図や天正遣欧使節団の様子を動画で流すためのシアターが設置されていること

1階スペースでは

- ★飲食が可能で、軽食を提供するカフェが併設されていること
- ★メインエントランスを入ると、緩やかにカーブしている天井が吹き抜けになっており対馬杉を使っていることから開放感とやさしさと木の香りに癒される空間となっていること

5階から1階までの「ミライ ON 図書館ツアー（約50分間・3000歩）を終えた後の質疑応答の中で

Q 遠隔地返却サービスの仕組みは

A 県内各図書館を協力館として連携しており、協力車を周回して回収とリクエスト本の配本をしているほか、郵送での返却も可。分室として公民館や住民センター6箇所にブックポストを設置している

Q 整備の経緯と整備費に対する国の補助金

A 社会整備の一環として大村市へは10億円の国の補助を受けた
県立図書館と大村市図書館の改築時期が重なったことから県市合同での整備となった

Q 県市合同での運用の方法と運用経費は

A 73人の職員のうち、県職員は30人で市職員は43人
図書館費3億円の半分の1億5千万が業務委託費となっている

Q 1階に併設されているカフェの委託について

A プロポーザル方式で業者選定しているが、コロナ禍の営業面での課題から令和4年末に最初の業者が撤退し、その後、現在の業者による運営となっている

Q 開館時間が午後8時までであるが職員体制は

A 通常出勤者と午前11時30分出勤者のシフト制にしており、遅番の職員で午後8時までの開館を担っている

(2) 考 察

コンセプトとして

- 1・知の拠点として県民市民を支える図書館
- 2・全ての県民市民がサービスを利用できる図書館
- 3・県民市民と共に創る図書館
- 4・出逢いにあふれる楽しい図書館
- 5・ミライを想像する礎を築く図書館
- 6・故郷の歴史と文化に親しみ、活用区分や蔵書区分のない一つの図書館

の六つの項目を掲げておられるミライ ON 図書館

その概要説明では、縣市合同での整備の経緯と合同だからこそのメリットや開館時間延長のための手法を学ぶことが出来ました。

また図書館全館見学ツアーの中で「利用者に寄り添い、細やかな配慮や心配りが溢れた」素晴らしいハード面、ソフト面での対応には学ぶべき点多々ありました。

彦根市での図書館構想を考える過程で、それぞれの特色を活かした図書館整備の必要性や利用者にとって親しみやすく使いやすい、また楽しい図書館であることへのヒントを得た研修となりました。

今回の研修での学びを「これからの彦根市の図書館の在り方」へと反映させていきたいと考えています。